

伊勢崎市市民アンケート報告書
【概要版】

令和5年9月
伊勢崎市

市民意識の動向と市民のニーズを統計的に把握し、次期計画の策定及び今後の市政運営に反映させるために市民アンケートを実施しました。

アンケート実施概要

目的	市民意識の動向と現在の市民の多様なニーズを統計的に把握し、その結果を第3次伊勢崎市総合計画（以下、総合計画）の策定及び今後の市政運営の基礎資料とする。
対象	伊勢崎市に在住する満18歳以上の人（無作為に2,000人を抽出した）
有効回答数	合計：545件 有効回収率（27.3%）
調査期間	令和5年6月9日（金）～令和5年6月30日（金）
調査方法	調査票を郵送し、回答を返信用封筒にて返送又は専用ページからインターネットで回答。
設問項目	<ol style="list-style-type: none"> 1. 回答者の属性（性別、居住地等） 2. 住みやすさと定住意向 3. 現行の取り組みへの評価（施策別の満足度・重要度） 4. 分野別の意見 5. 現在と将来の市について 6. 自由意見

意見の傾向（回答者の属性）

● 回答者の性別

男性42.8%、女性56.5%とやや女性の回答者が多い。

● 回答者の年齢

若い世代の回答者（30歳代以下：19.4%）に比べて、高齢者世代（60歳代以上：46.4%）が多くなっている。

● 回答者の居住年数

回答者の年齢層が高いことに起因して、「20年以上」と回答した人が多い。（77.2%）

● 回答者の居住地

伊勢崎地区が約60%、赤堀地区、東地区、境地区がそれぞれ約10%と回答した。

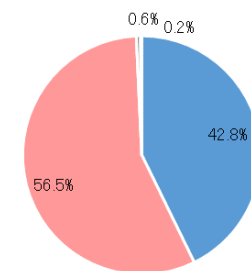
● 回答者の勤務地・通学場所

伊勢崎市内が最も多く42.4%、次いで近隣市である前橋市、太田市がそれぞれ7.3%、6.4%と回答した。

● 子どもの年齢

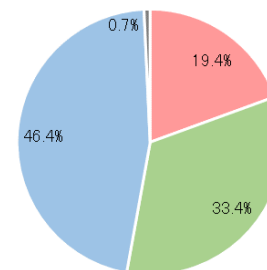
回答者の年齢層が高いことに起因して、「働いている」と回答した人が多い。（46.2%）

回答者の性別（割合）



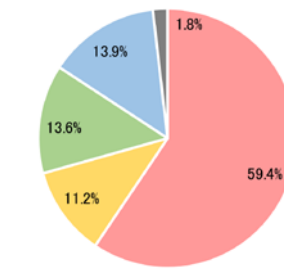
● 男性 ● 女性 ● その他 ● 無回答 ● 無効回答

回答者の年齢（割合）



● 30歳代以下 ● 40歳代、50歳代
● 60歳代以上 ● 無回答

回答者の居住地（割合）



● 伊勢崎地区 ● 赤堀地区 ● 東地区
● 境地区 ● 無回答

伊勢崎市を住みよいと感じている市民が多く、特に「災害が少ないから」と感じています。取り組みの重要度は年々上がっており、市民のニーズに対応していく必要があります。

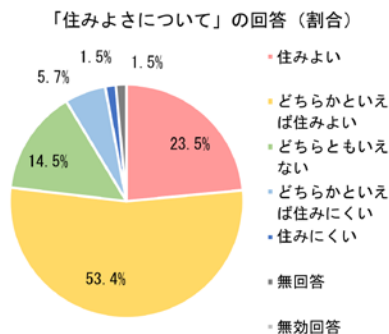
意見の総括（住みやすさと定住意向）

伊勢崎市の住みよさについては、「住みよい」、「比較的住みよい」と感じている市民が多く（76.9%）、理由としては「災害が比較的少ないから」（68.8%）、「買い物が便利だから」（42.4%）、「車移動が便利だから」（40.4%）などが多く挙げられている。

特に「災害が比較的少ないから」については、60歳以上の高齢者の多く（約80%）が住みよい理由として挙げており、伊勢崎市において安心安全に生活することができる大きな要因となっている。

一方で住みにくいと感じる理由としては「バスなどの公共交通機関が不便だから」（56.7%）、「高齢者・障害者への対応が進んでいないから」（19.3%）、「買い物が不便だから」（16.1%）などが多く挙げられている。特に、「バスなどの公共交通機関が不便だから」については、若い世代から高齢者まで広い世代で住みにくい理由として挙げられている。また、「高齢者・障害者への対応が進んでいないから」については、60歳以上の高齢者の回答者ほど理由として挙げている傾向があることから、喫緊の課題である可能性がある。

伊勢崎市への定住意向については「ずっと住んでいたい」、「当分住んでいたい」と回答した人が多い（72.7%）という結果であり、多くの市民が今後も伊勢崎市で生活したいと感じている。



意見の総括（現行の取り組みへの評価）

令和3年度に実施した市民意識調査時の満足度・重要度に比べて、今回の市民アンケートでは41施策中34施策で満足度が下がっている一方で、重要度は約6割の25施策で重要度が上がっており、現行の取り組みでは市民のニーズに対して十分に対応できていない可能性があると考えられる。

また、年代別で満足度や重要度を見ると、30歳代という子育てに励む市民が多い年代において、「子ども・子育て支援の充実」が重要度としては3位であるのに対して、その満足度は全41施策中の最下位となっていることから子育て世代への支援が十分でない可能性がある。

満足度が低い施策が多い福祉分野、都市基盤分野、産業・観光分野、安心安全分野、行財政分野については次期計画においては特に重点分野に位置付けて事業に取り組む必要があると考えられる。

分野	A	B	C	D	施策数
健康・医療分野	1	-	2	-	3
福祉分野	3	1	-	-	4
都市基盤分野	2	3	2	-	7
産業・観光分野	1	3	-	-	4
安心 安全分野	5	-	1	-	6
環境分野	-	-	1	2	3
教育分野	-	-	2	1	3
生涯学習・スポーツ・文化分野	1	-	-	4	5
協働・共生分野	-	-	-	4	4
行財政分野	2	-	-	-	2
合計	15	7	8	11	41

A:重点改善施策、B:改善施策、C:重点維持施策、D:維持施策

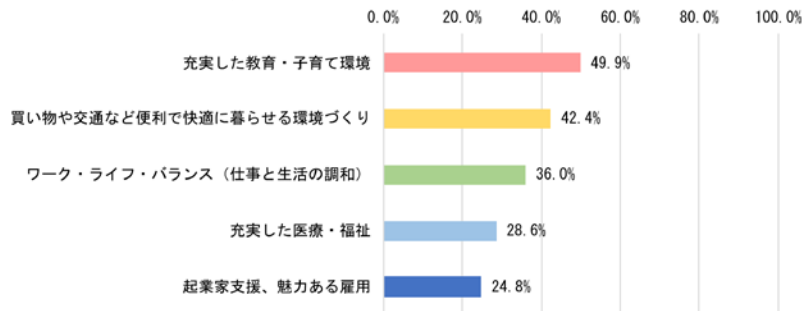
若い世代の定住を促進するために、子育てと仕事を両立しやすいまちづくりを目指していく必要があります。

意見の総括（現在の市と将来の市について）

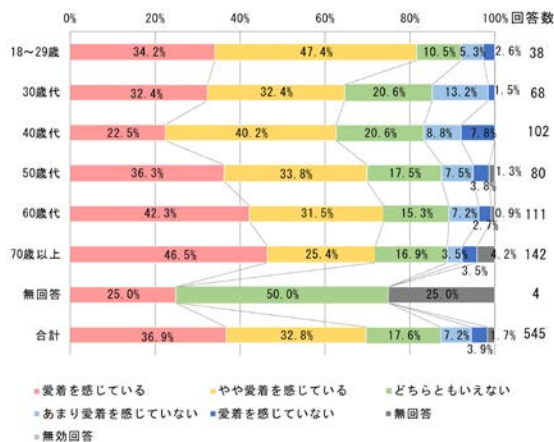
伊勢崎市への愛着については「愛着を感じている」と回答した人の割合は概ね年齢が増加していくにつれて大きくなっている。また、「愛着を感じている」及び「やや愛着を感じている」と回答した人の割合を見ると、18～29歳の回答割合が大きい（81.6%）ことが分かる。このことから、伊勢崎市に愛着を持ちつつある若い世代にもっと愛着を持ってもらえるような取り組みを行うことで若い世代の定住につながっていくと考えられる。

若い世代にとって魅力的なまちになるために重要だとすることに挙げられているように「充実した教育・子育て環境」（49.9%）、「買い物や交通など便利で快適に暮らせる環境づくり」（42.4%）、「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」（36.0%）といった、子育てと仕事を両立しやすいまちづくりを目指していく必要があると考えられる。

若い世代にとって魅力的なまちになるために重要なこと
（上位5項目の回答割合）



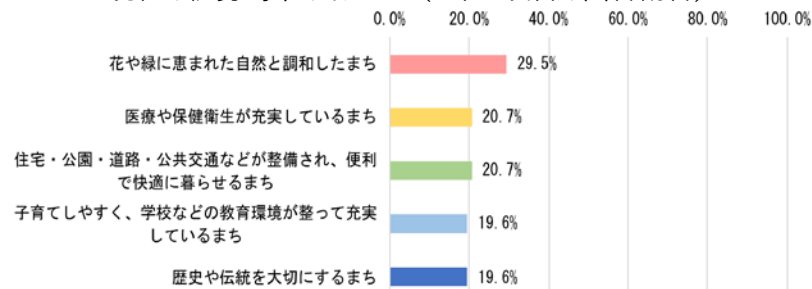
年代別の「伊勢崎市の愛着」の回答（割合）



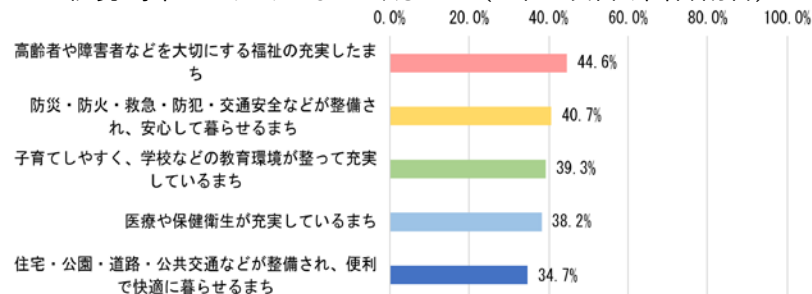
現在の伊勢崎市のイメージと将来目指してほしい伊勢崎市のイメージを見ると、上述の子育てと仕事が両立できるようなまちづくりを目指してほしいということの他に、「高齢者や障害者などを大切にする福祉の充実したまち」（44.6%）や「防災・防火・救急・防犯・交通安全などが整備され、安心して暮らせるまち」（40.7%）といった安心安全にいつまでも伊勢崎市で生活できるようなまちを目指してほしいという意見が多い。

また、「現行の取り組みへの評価」においても福祉分野や安心安全分野の施策の多くが重点改善施策に挙げられていることから、福祉分野や安心安全分野を次期計画において特に重点分野に位置付ける必要があると考えられる。

現在の伊勢崎市のイメージ（上位5項目の回答割合）



伊勢崎市がどのようになって欲しいか（上位5項目の回答割合）



「現在の伊勢崎市のイメージ」と「将来望む伊勢崎市の姿」を比較し、明らかになった充実すべき政策

意見の総括（現在の伊勢崎市のイメージと将来望む伊勢崎市の姿の比較について）

市民アンケートから「現在の伊勢崎市のイメージ」と「将来望む伊勢崎市の姿」とを比較し、その差を点数化しました。その差（ギャップ）を見ると、特に「2 高齢者や障害者などを大切にする福祉の充実したまち（+8）」、「4 防災・防火・救急・防犯・交通安全などが整備され、安心して暮らせるまち（+4）」、「1 子育てしやすく、学校などの教育環境が整っているまち（+1）」、「5 快適な街並みや美しい都市景観に満ちたまち（+1）」、「9 教育・文化環境が整い、スポーツやレクリエーション活動が盛んなまち（+1）」、「11 産業が盛んで働く場所が多いまち（+1）」となり、この差（ギャップ）を埋める政策を充実すべきという課題が明らかになりました。

項 目	現在の伊勢崎市のイメージ				現在と将来とのギャップ				将来望む伊勢崎市の姿			
	全体	若者	大人	高齢者	全体	若者	大人	高齢者	全体	若者	大人	高齢者
		(20代・30代)	(40代・50代)	(60歳以上)		(20代・30代)	(40代・50代)	(60歳以上)		(20代・30代)	(40代・50代)	(60歳以上)
1 子育てしやすく、学校などの教育環境が整っているまち	4位	5位	4位	4位	+1	+4	-1	+1	3位	1位	5位	3位
2 高齢者や障害者などを大切にする福祉の充実したまち	9位	10位	9位	7位	+8	+5	+6	+6	1位	5位	3位	1位
3 医療や保健衛生が充実したまち	3位	7位	6位	2位	-1	+4	+5	-2	4位	3位	1位	4位
4 防災・防火・救急・防犯・交通安全などが整備され、安心して暮らせるまち	6位	5位	7位	3位	+4	+1	+5	+1	2位	4位	2位	2位
5 快適な街並みや美しい都市景観に満ちたまち	11位	9位	10位	11位	+1	+2	+1	+1	10位	7位	9位	10位
6 住宅・公園・道路・公共交通などが整備され、便利で快適に暮らせるまち	2位	3位	2位	6位	-3	+1	-2	+1	5位	2位	4位	5位
7 脱炭素・循環型社会を目指したまち	12位	12位	12位	12位	0	0	0	0	12位	12位	12位	12位
8 花や緑に恵まれた自然と調和したまち	1位	1位	1位	1位	-7	-7	-7	-6	8位	8位	8位	7位
9 教育・文化環境が整い、スポーツやレクリエーション活動が盛んなまち	10位	11位	11位	10位	+1	+1	+1	+4	9位	10位	10位	6位
10 歴史や伝統を大切にするまち	4位	3位	5位	4位	-7	-8	-6	-7	11位	11位	11位	11位
11 産業が盛んで働く場所が多いまち	8位	8位	8位	8位	+1	0	+1	+1	7位	8位	7位	7位
12 買い物やグルメが楽しめるまち	6位	2位	3位	9位	0	-4	-3	0	6位	6位	6位	9位

市民アンケートでの意見を踏まえて、4つの重点分野（A重点改善施策、B改善施策が多い分野）について、分野別の意見から次期計画の方針を整理しました。

意見の総括（分野別の意見・重点分野抜粋）

1 福祉分野

- Q.子育てしやすいまちにするために重要なことはなにか
- 経済的負担の軽減（46.4%） 両親の就労環境の整備（44.0%）

【次期計画での方針】

- 保護者の経済的負担の軽減
- 一時保育の充実など、保護者の就労環境の変化に合わせた行政サービス

- Q.高齢者に優しいまちにするために重要なことはなにか

- 介助者が相談できる人・機関（64.8%）
- 介護予防の推進（42.8%）

【次期計画での方針】

- 高齢者がいつまでもいきいきと社会の中で活躍できるような環境づくり
- 介助の多様化や複雑化への問題に対応できるように、介助者が困ったときに相談できるような体制の整備

2 都市基盤分野

- Q.伊勢崎市が持続可能な都市づくりを実現するために、都市基盤において重要なことはなにか

- 公共交通の整備・充実（45.1%）
- 道路網の整備・充実（35.2%）
- 商業施設の整備・充実（28.8%）
- 福祉施設の整備・充実（27.9%）

【次期計画の方針】

- 高齢者の免許自主返納や駅・バス停までのラストワンマイル問題に対応するため、コミュニティバスに加えてオンデマンド交通の実用化
- 商業施設や福祉施設を集約するのではなく、市民が快適に生活するために分散化させるなど、バランスの良い都市整備

3 産業・観光分野

- Q.これからの伊勢崎市の商業地のあり方に関して重要なことはなにか

- 徒歩や自転車で買い物できる身近な生活圏への店舗の立地（68.1%）
- 商店街など地域にある身近な商業施設の活性化（48.8%）

【次期計画での方針】

- 地域に根差した徒歩や自転車で行くことのできる店舗の充実
- 小規模から中規模の商業施設への創業支援や融資
- 市民や観光客を巻き込んだ商店街のイベントの開催などへの支援

4 安心安全分野

- Q.災害に強いまちづくりを推進するために重要なことはなにか

- インフラの整備（耐震化など）（58.3%）
- 避難所の環境整備の充実（56.0%）
- 地域での避難・見守り体制の構築（40.0%）

【次期計画での方針】

- 災害時でも市民が不自由なく生活できるようなインフラの整備
- 避難所での感染症対策等の環境の整備
- 地域全体での見守り体制を構築するため、行政から自治会等に支援・働きかけを行うことによる「自助」・「共助」・「公助」のバランスの維持

次期計画において、他分野と横断的に取り組むべき重点分野の課題を整理しました。

重点分野ごとに他分野と横断的に取り組む課題

1 福祉分野

アンケート結果から、若い世代の人々は「教育・子育て環境の充実」や「買い物や交通などが便利で快適に暮らせる環境づくり」、「ワーク・ライフ・バランス」を重要視しており、**教育分野及び都市基盤分野との連携**が必要である。

子育て支援にあたっては、「保育料や医療費といった子育てにかかる経済的支援」や「子育てに配慮した保護者の就労環境の整備」が特に重要視され、**産業・観光分野との連携**が必要である。

また、保育所の入所手続きや子育て給付などのため、保護者が市役所に来なくても行政手続きを行えるように手続きのオンライン化等のDXの取組の推進が求められており、**行財政分野との連携**が必要であると考えられる。

2 都市基盤分野

近年、ゲリラ豪雨などの気候変動による災害が頻発しており、抜本的な地球温暖化対策のため、市民・事業者・行政が総ぐるみでGXを推進していく必要がある。また、公園の整備等、「花や緑といった自然と調和したまち」という伊勢崎市の特徴的なイメージを失うことなく、環境にも配慮した美しく快適な都市を整備していくため、緑化の推進や水資源の活用も推進していく必要があり、**環境分野との連携**が必要である。

都市基盤の整備は公園や道路、公共交通が整備され、市民が便利で快適に暮らすために公園や道路を整備するだけでなく、防災・防火・救急などの災害時のための基盤整備にも並行して取り組む必要があり、ITを活用した防災システムの充実を図るため、**安心安全分野及び行財政分野との連携**が必要である。

3 産業・観光分野

関東有数の工業都市として産業を更に強化するために、インフラ整備が必要であり、**都市基盤分野との連携**が必要である。

多数の外国籍住民が生活する伊勢崎市は先進的である一方で、今後は人口減少を迎えることとなる。伊勢崎市全体を活性化させるためには「関係人口」の増加が大きな要因となると考えられ、世界遺産である「田島弥平旧宅」や華蔵寺公園遊園地など魅力的な文化、歴史、観光資源に訪れる人々に多様な形で伊勢崎市に関わってもらうための取り組みを推進する必要があり、**生涯学習・スポーツ・文化分野との連携**が必要である。

また、事業者のキャッシュレス決済の導入支援などDXの推進や移住支援施策などの**行財政分野との連携**が必要である。

4 安心安全分野

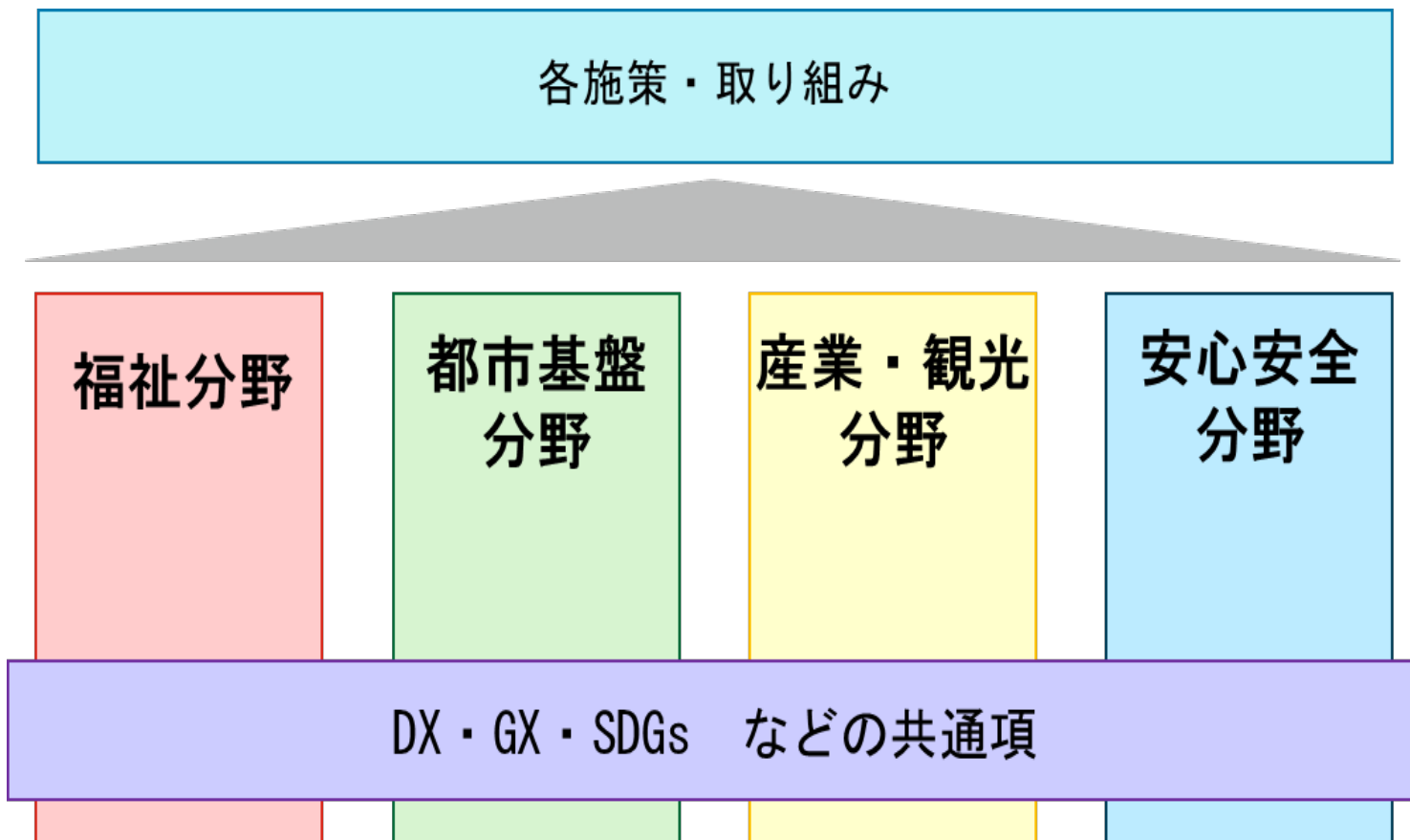
市民が安心安全に生活するためには、防災・防犯の推進や救急医療体制の充実などによる**健康・医療分野との連携**はもちろんのこと、道路や公共交通などの**都市基盤分野の充実**など、多岐にわたる分野において横断的に取り組みを進めていく必要がある。

「誰一人取り残さない」という視点を重視し、多様な市民を支え、元気に社会活動ができるように「市民の健康づくりや介護予防の支援」、「日本人と外国人がお互いに尊重しあい生活習慣や文化の違いの理解を深めること」などに取り組むために**健康・医療分野、福祉分野、協働・共生分野との連携**が必要である。

さらには、持続可能なまちを実現するために、行政サービスの利用状況などのバランスを見ながら見直しを行っていく必要があることから、**行財政分野との連携**が必要である。

市民アンケートでの意見を踏まえて、次期計画において他分野と横断的に取り組むべき重点分野の課題を整理しました。

重点分野ごとに他分野と横断的に取り組む課題



アンケート結果や横断的に取り組む課題を踏まえて、次期計画において特に重点を置くべき取り組みを分野ごとに整理しました。

重点を置くべき取り組み

<p>健康・医療分野 福祉分野</p>	<ul style="list-style-type: none"> 市民の健康づくりや介護予防の支援 各種健診の受診勧奨 子育て世代への経済的な支援 子育てに配慮した保護者の就労環境の整備 介助者の相談体制の充実 高齢者が地域活動できる場の確保
<p>都市基盤分野 産業・観光分野</p>	<ul style="list-style-type: none"> 道路網や公共交通等のインフラの整備 中小企業の支援などの商工業活性化への支援 積極的な企業誘致と魅力的な雇用の創出 関係人口の創出
<p>安心安全分野 環境分野</p>	<ul style="list-style-type: none"> 災害に強いインフラの整備 避難所の充実や避難・見守り体制の構築 防犯対策や交通安全対策の推進 地球温暖化対策や脱炭素のさらなる推進
<p>教育分野 生涯学習・スポーツ 文化分野</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学校等の教育環境の充実 運動施設や図書館などの市民が気軽にスポーツや生涯学習できる場の確保
<p>協働・共生分野 行財政分野</p>	<ul style="list-style-type: none"> 多種多様な市民が共生できる環境の整備 市民と行政の交流や意見交換する機会の創出 利用状況に応じた行政サービスの見直し 行政手続きのオンライン化等のDXの取り組みの促進